

# 龍源寺報

秋彼岸号

派樹信覺行  
寺原覺行  
心松原行  
宗・妙松原行  
濟職住職  
臨住職  
佛母寺住職  
正福寺住職  
TEL 3451-1853  
FAX 3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: ryugenji@ryigenji.com

URL: <http://www.ryugenji.com>

## 秋彼岸に思う

先日、駐車場のアスファルトの舗装工事をした。ところが数日すると、舗装されたアスファルトから、わずかなドクダミの草が生えてきた。はじめは、工事のミスかと思い、建設会社に電話をし、いくつかの質問をしたが、どうも通常、アスファルトで舗装をしても雑草は、ところかまわず生えてくるものらしい。私はその時、「雑草は、種が落ちたところで、生きていかなければならず、自分の力で育つ場所を選ぶことはできない」と当たり前のことだが、率直に思った。雑草はどんなところでも、縁のあった場所に根を張り、そこで生きていかなければならない。雑草と違い私達は、意志があり動ける。色々な場所にも行けるし、各人が好きな生き方で過ごせる可能性がある。しかし、私はそのことを自由だと思わない。根の浅い張り方をした生き方だと、すぐにどこかに飛ばされてしまう。人は地に足をつけて生活をした方がいい。そうでないと、すべてが中途半端なものになってしまう。自由の意味を履き違えてはいけない。

最近の風潮で、人々は二・三ヶ月程度の短い研修期間を経ていわゆる「専門家」を名乗って

しまう傾向がある。すでに、そのことに気づいている方々も多いと思うし、まさにその渦中にいて、「専門家」の名と自己の間で悩んでいる方々もいると思う。思うに、辻説法が行なわれた三田のグレース喫茶店に多くの方々が来られたのは、百歳を越え、いのちをかけて説法する泰道和尚の水際だった生き方に感銘をうけていたからだ。例えば大工さんだったら、「なるほど彼は大工だ」という、いかに大工として水際だった生き方をしていけるかどうかの覚悟が必要だ。そのことが、前述した雑草の強い生き方に関わってくる。

境内の彼岸花の姿を思い出していたきたい。二、三日の日にちのずれはあるかもしれないが、不思議なことに、毎年決まった時期に花を咲かせる。そこには、トンボも羽を休める。多くの方々にきれいだと言われる。私は、誰からも好まれる境内に咲く彼岸花の姿が好きだ。そういえば、昔から祖母は、一輪の名のない草花に「わたしがここにいます」と小さな細長い竹で示していた。秋彼岸を迎え、名のない境内の草花のいのちからいただく気づきに感謝し、くじけることのない植物の生命に勇気をもらい、不器用な私だが、今・ここ・自分を精一杯生きていきたい。

## 秋ひがん法要

左の通り行ないます。ご家族そろってお参りください。

一、九月二十三日・秋分の日（午前十一時より）

一、読経

一、法話

一、齋座（おとき）

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。

### 義援金報告（観音堂前募金箱）

平成二十三年三月十二日～三月二十一日

金一〇〇、四三〇円也

日本赤十字社に寄付

三月二十二日～七月十日

金一五〇、〇〇〇円也

気仙沼市地福寺様に寄付

ありがとうございました

### 龍源寺への交通の便（地下鉄）

- 都営三田線（目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分）
- 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

### 龍源寺への交通の便（都バス）

- 田 87 渋谷駅ー田町駅 魚ラン坂下下車
- 都 06 渋谷駅ー新橋駅 古川橋下車
- 品 97 品川駅ー新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車
- 反 96 五反田駅ー品川駅ー六本木ヒルズ（循環）  
魚ラン坂下・古川橋下車
- 東 98 東京駅丸の内南口ー目黒駅 魚ラン坂下下車

## 三人の偲ぶ会と禪の会四〇〇回記念

七月二日に松原泰道・志ず・哲明の偲ぶ会と禪の会四〇〇回記念を、高輪プリンスホテルで行いました。禪の会・檀信徒の皆様にお手伝いいただきましたことを厚く御礼申し上げます。当日は、約三〇〇名の方々にご出席いただき、皆様と一緒にひとときを過ごさせていただきました。多くのの方々からのお声をもとに、開催された偲ぶ会でしたので、大変心のあたたまるいい会でした。当日は、第一土曜日ということもあって、定例の坐禅会が朝から三つある中での偲ぶ会の挙行動となりました。四〇〇回記念と言うことは、月一回の開催ですので、三十三年前からずっと開催されている坐禅会になります。今までに、多くの知の邂逅がありました。今後も、禪という古典を現代の価値観に合わせて再生し、禪の会の皆様と共に勉強を続けてまいりたいと思います。来年は師父・哲明の三回忌が営まれます。どのように皆様にご参加いただくか考慮致しております。

## 哲明師追善茶会の記

くもり空の六月二十六日(日)、新宿区高田馬場・茶道会館に於いて、恒例の夏越なごしの茶会が開かれました。生前哲明が、青山会で「茶禅一味を味わう講座」にてお世話になったご縁で、逢春亭におきまして追善の濃茶席を担当させていただきました。分厚い『大唐西域記』の本をいつも携えて、玄奘三蔵法師を追い求めて、シルク・ロードを旅していた哲明の姿を思い出します。待合床まちあいどこにNHK「心の時代」に出演した折に使ったシルク・ロードの地図を懸け、仏教東漸の思いを新たに致しました。

護襟ごきん(白い羽二重の襟巻き)の生成きなりになった裂きれで作ってみました。茶約はキルギス共和国を訪れた折、当地の方々をお招きして茶会を催した時、島根県出雲市の十楽寺の庵主さんがお持ちになり、旅してきた茶約だからいつか又使う様にとくださったものです。旅の途中で見つけた道具それぞれを、皆様にご披露できましたこと、本当に幸せでありました。

暑すぎた交河故城、高昌故城、砂嵐にあったトルファン、キジル千仏洞の天文学的な数の仏様、敦煌石窟の後に広がる砂漠の風紋、キルギス、イシククル湖の向こうにそびえる雪をかぶった天山山脈、くもり空のどこからか旅で出会った人たちと哲明の話声が聞こえてくるような追善茶会でした。

(松原真紗子)

花は、雲竜紋の中国白青磁の瓶に、鹿野山の佛母寺の沙羅双樹の花を生けました。又、黒棗くろなつめに包んだ仕服は、哲明の

柳 緑

花 紅

秋彼岸会を迎えます。師父・

哲明和尚の新盆の法要も無事

終わりました。賑やかな家族

でしたので、賑やかなお盆に

なつたことと思います。目に

見えるものだけを見たというのではなく

て、目に見えないものをも感じ取って見

ていくことが、偏らない物事の見方だと

思います。▼何回か本紙でお願いをさせ

ていただいているせいか、お電話を入れ

ていただくことが多くなり、大変助かつ

ております。お檀家様で、お葬式をださ

れる場合、ご存知の葬儀社がない方は、

泰道和尚・哲明和尚の葬儀に使用した葬

儀社を紹介させていただきまます。いざ、

ご家族が亡くなると、なすべき事がたく

さんありすぎて、慌ただしいのが現状で

す。私もこの二年間で、祖父・祖母・父

と三人の葬儀をだしました。仏事に慣れ

ている僧侶の私でさえ、非常に慌ただし

い体験をしました。もし、お葬式をださ

れる場合、僧侶がいらないとお葬式ができ

ないゆえに、まず、一番はじめに龍源寺

にお電話を入れていただきたいと思います

す。龍源寺本堂もしくは、花園会館を使

用してのお葬式・家族葬・密葬も執り行

うことができます。(本堂・花園会館使

用の際は、指定業者となります。)又、

生前のご相談もうけさせていただきます。

▼年忌法要を行う場合、本堂が二階にあ

るため、ご高齢の方は階段の上り下りが

大変です。一階の書院を使って法要を行

うことが出来ます。広さと定例会の関係

上、日曜日に限り十五名まででお願いい

たします。▼渋谷区広尾にある東北寺内

龍源寺墓地・合同船は、墓地の継承者を

気にしなくてもよい永代供養塔です。龍

源寺の規則を守っていただければ、どな

たでもこのお墓を使用できます。▼北軽

井沢日月庵坐禅堂で十一月二日・三日で

作務の会というお掃除の会を行います。

龍源寺から北軽井沢の日月庵まで禅の会

の野本さんにバスを運転していただきま

す。バスのチャーター代・往復高速道路

料金・ガソリン代で一人八千円くらいで

す。もちろん、直接現地に集合もできま

す。作務の会の会費は無料です。泰道和

尚が建立した禅堂と研修所を大切に護持

したいと思っております。ご参加いただ

ける方は、龍源寺にご連絡お願いいたし

ます。▼私自身、再び中国・元の時代に

活躍していた中峰明本という禅僧の語録

を少しずつ精読しています。母は、お寺

の仕事はもちろん、茶道の先生、民生委

員、龍源寺・佛母寺の護持に忙しい毎日

を送っています。少し忙しい方が、気持

ちがまぎれるのかもしれませんが。弟の覚

樹は、アメリカで教鞭の仕事をしなが

ら、佛母寺住職として寺務を行っております。

娘も誕生し、母も喜んでおります。もう

一人の弟である行樹は、横浜の戸塚の円

覚寺派正福寺住職として活躍中です。息

子も幼稚園に入りました。行樹と私は、

共にカルチャーセンターで講師をさせて

いただいております。▼あるお檀家様よ

り、お彼岸のお齋のちらしですが大変お

いしいという、嬉しいお話をいただきま

した。前日より野菜の刻みをして、朝四

時よりご飯を炊き始めます。典座(台

所)のお手伝いも大歓迎です。九月二

十三日の秋彼岸会で皆様とお会いでき

るのを楽しみにしております。(信樹)